

第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

2017年5月13日（土）～14日（日）

@サンポートホール高松、高松シンボルタワー、JR ホテルクレメント高松

プレコングレスワークショップ 6	
企画名	模擬データを使って地域の健康づくりを立案しよう
日時	2017年5月12日（金） 13:20～14:50
会場	第3会場 （サンポートホール高松 ホール棟 5F 54会議室）
企画責任者	廣瀬 英生（県北西部地域医療センター国保和良診療所）
定員	30名
開催の目的・概要	
<p>【開催の目的】</p> <p>地域医療を展開する実践方法の一つとして PRECEDE-PROCEED model を用いた地域健康福祉計画の立案、適用、評価について議論し、参加者の方々の今後の地域医療実践活動の一助とする。今回は、実際のデータを使用してどういう過程で地域の様子を把握するかを体験してもらう。</p> <p>【概要】</p> <p>地域医療の魅力は、健康な人も病気の人も、医療機関にかかっている人も医療機関にかかっていない人も含めて community 全体を対象にして、健康づくりに関わることができることである。</p> <p>今回は、仮想の地域である人口 1000 人の A 地域が舞台である。あなたはその地域にあるただ一つの診療所の医師（もしくは保健師である）。今あなたの目の前には、1000 人を 10 年追跡した地域のデータ（年齢、性別、一般健診データ、死亡状況、心血管イベントの発症状況）が分かっている。これらのデータを使って、この地域に対して自分はどのような健康づくりをすればよいか？</p> <p>まずは、簡単なエクセルを利用した記述疫学を使って地域で起こっていることについて把握する。その次に、死亡、疾病データを用いてそのリスクファクターについて統計ソフトを用いて分析する。その結果を基に自分たちがどういった健康政策を立案していけばよいかを討論していただく。</p> <p>最後に実践例として、郡上市和良町で行っている健康福祉総合計画「まめなかな和良 21 プラン」の紹介を行う予定である。</p>	